文学館だより

令和 ６年１２月 １日
若山牧水記念文学館
TEL 0982－68－9511
文責 日高 第104号

この前まで「暑い、暑い」と言っていたように思いますが、秋はあっという間に過ぎ去り、一気に寒気到来。いつもの師走を迎えました。今年は皆の平穏を祈り続ける一年でした。自然災害、戦乱の世の中が多く詠まれた一年でした。

第3回伊藤一彦短歌実作講座開催　11月20日（水）

館長伊藤一彦先生を日向にお迎えして本年度最後の短歌実作講座を開催しました。「開講当初に比べみんな上手になってきた。ことばの順番とか表現の工夫とかを伝えていく」と伊藤先生に言っていただき、意見感想を交えながら学びを高めました。今回の投稿歌と添削後を紹介します。

○能登地震加えて豪雨襲いけり立ち上がる意気つぶすがごとく
↓
地震の能登加えて豪雨襲いけり立ち上がる意気つぶすがごとく

○子も知らぬ悲しみもありしが晩年の今が幸せと母言ひくれにけり
↓
子の知らぬ悲しみもありしが晩年の今が幸せと母言ひくれり
子も知らぬ悲しみのありしが晩年の今が幸せと母言ひくれり

① 「も」の重なり・・・どちらかを「の」にするとよい。
② 結句９音を７字に収める。

○きよきよと深秋の朝相思鳥姿は見えねど交わす声あり
↓
きよきよと深秋の朝相思鳥姿見えねど交わす声あり

４音・４音の字余り・・・３音・４音（４音・３音）にするとよい。

○五つ六つひょうたんカボチャの柿の木に“空飛ぶカボチャ”と皆が笑顔に
↓
五つ六つひょうたんカボチャ柿の木に“空飛ぶカボチャ”と皆が笑えり

①小さい「ゃ」「ゅ」「ょ」（拗音）は１音に数えない・・・「ひょ」「う」「た」「ん」は４音
②結句の言いさし「笑顔に」（名詞＋に）を「笑えり」（動詞）に変える。

講座修了後に作成している歌集 ↑

昨年の歌集より↑

今年度も歌集にまとめ、講座生に届けます。

坪谷小のみんな、牧水生家清掃ありがとう　11月28日（木）

今年も、牧水の母校坪谷小学校のみなさんが牧水生家を清掃してくださいました。
下級生とペアを組む上級生の姿、先生と並んで草を抜く姿、みんなの一生懸命な姿を今年も見ることができました。坪谷小のみんな、ありがとうございました。

初めて参加した１年生

終了後、尾鈴山に向かって牧水短歌斉唱

宮崎日日新聞社が坪小密着取材。１月の宮日こども新聞をお楽しみに。

発表！！　第29回若山牧水賞

大辻　隆弘　さん
受賞歌集『　橡　と　石　垣　』

高山　邦男　さん
受賞歌集『Ｍｏｔｈｅｒ』

第29回若山牧水賞が発表され、5年ぶりに二人の受賞者が選出されました。

大辻隆弘さん　受賞歌集『橡と石垣』より
あれはいつの試験監督しんしんと枇杷の木に降る雪を見てゐつ
鈍よりも濃き　橡　のいろの夜がわが窓のかたはらにおぼめく

高山邦男さん　受賞歌集『Mother』より
母と歌ふきらきら星は途中まで買ひ物帰りの冬のゆふぐれ
朝早く起き始める日はいい調子母ががらがら雨戸をあける

授賞式及び受賞祝賀会	令和７年１月30日（木）15：00～	ザ・メイビア宮崎（宮崎市）
受賞者学校訪問	１月31日（金）午前	宮崎県立日向工業高等学校
若山牧水生家・若山牧水記念文学館訪問		
受賞記念講演会	１月31日（金）午後	カルチャープラザのべおか

問い合わせ先　若山牧水賞運営委員会事務局　TEL　0985－26－7099

当文学館ではお二人の来訪に併せ令和７年１月28日（火）より企画展「第29回若山牧水賞」を開催します。今回受賞のお二人をはじめ、歴代受賞者全員の写真パネル、受賞歌集、自選五首直筆原稿、来館記念サイン色紙を一挙公開する当館ならではの企画展です。大辻さん高山さんお二人に喜んでいただけるよう準備してまいります。

ほっこりのおすそわけ

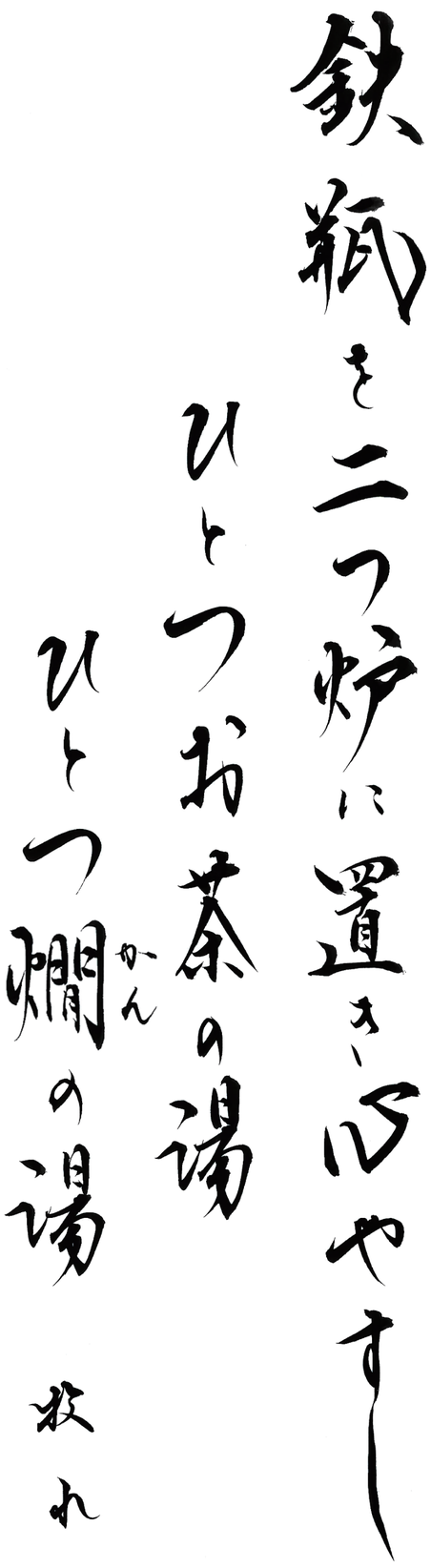
11月生家ノートより
「静岡県沼津市から車で訪問。沼津の牧水記念館が地元です。遠い宮崎との縁を感じました。皆に伝えます。あと、沼津よりも規模が大きく、公園まであっていい場所と思いました。帰ったら再度、沼津の記念館に行きたいと思います。」

牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

鉄瓶を二つ炉に置き心やすしひとつお茶の湯ひとつ燗の湯
てつびんを　ふたつろにおき　こころやすし　ひとつおちゃのゆ　ひとつかんのゆ

大正 15 年詠。随筆に「炉のそばでこの文章を書いてをる。午前四時四十五分である。これを書き終へればこの白い湯気をふいてをる鉄瓶に一本つけて、たきたての飯をたべて、また一ねむりするのである。」という一節がある。鉄瓶二つ、燗の湯ひとつが何とも牧水先生らしい。



収蔵資料から

其の95　第９歌集『朝の歌』

発行日：大正５年６月２２日
発行所：天弦堂書房
収録歌数：２７３首

第９歌集『朝の歌』は、大正４年秋から５年春までの歌が収録されています。内容は三部に分かれており、「秋より冬へ」「春浅し」は喜志子の病気療養で神奈川県三浦半島北下浦滞在中の歌が、「残雪行」は５年春に東北各地を巡った折の歌が収められています。

歌集について、牧水の弟子 大悟法利雄は次のように述べています。

「自序」の中で牧水は、単なる即興の歌だと書いているが、後年の円熟した自然詠を思わせる清新な作品もかなりまじっている。（『若山牧水全歌集』解説）

下浦での生活がようやく落ちついてきたせいか、『砂丘』（第８歌集）と違って歌にずっと生気があり、牧水中期の歌風がここに確立したという感じがする。（『若山牧水伝』）

牧水歌碑めぐり

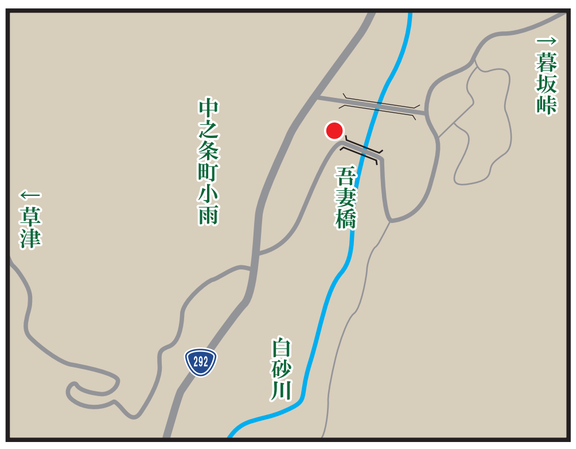
其の96　吾妻橋袂（群馬）

昭和53年建立

九十九折
けはしき
坂を
降り来れば
橋ありて
かゝる
峡の深みに
牧水

大正１１年１０月、牧水は長野、群馬各地を巡る旅に出かけます。１０月１９日、草津温泉から東へ向かい、九十九折りの険しい道を下って小雨村（現 中之条町小雨）に着きます。谷深くを流れる川に吾妻橋が架かっており、その情景を一首に詠みました。

歌碑は地元の方が自宅前に建てた後、現在地に移されました。



（参照『若山牧水全国歌碑集』）

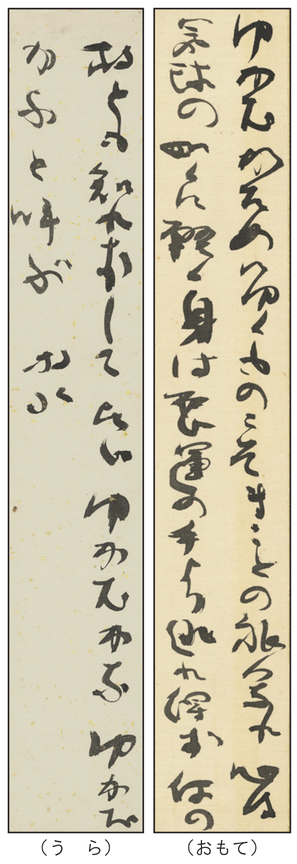
三浦家寄贈資料公開展
繁と敏夫 －受け継がれた二人の絆

貴重な牧水直筆資料などを展示しています

会期　１１月１日（金）～１２月２８日（土）
会場　若山牧水記念文学館 企画展示室

牧水・若山家を物心両面から支え続けた三浦敏夫の資料約 400 点から、特に貴重な資料を紹介、展示しています。

下の短冊は、牧水が晩年まで愛誦した詩人ボードレールの詩「旅」の一節を両面にわたり書いたものです。


【牧水の書（短冊）】
（おもて）ゆかむがためにゆくものこそまことの旅人奈（な）れ心は
気球の如くに軽く身は悪運の手より逃れ得ず何の
（うら）故とも知れずしてたゞゆかむか奈（な）ゆかむ
か奈と叫ぶ　牧水
（おもて）
（うら）

若山牧水記念文学館
〒883-0211　宮崎県日向市東郷町坪谷 1271 番地
〈ホームページはこちらから〉

■利用案内■
【開館時間】９：００～１７：００（入館は１６：３０まで）
【休 館 日】月曜日（祝日は除く）　年末年始（１２月２９日～１月３日）
【入 館 料】小・中学生／１００円　高校生以上／３１０円（２０名以上の団体は２割引）
【お問合せ】TEL　0982-68-9511 FAX　0982-68-9512【公式ＨＰ】https://www.bokusui.jp